



日本脳炎にご注意ください



8月1日に熊本県から日本脳炎注意報が発令されました

感染経路 日本脳炎は、日本脳炎ウイルスにより発生する疾病で、蚊を介して感染します。ヒトからヒトへの感染はなく、ブタなどの動物の体内でウイルスが増殖した後、そのブタを刺した蚊（主にコガタアカイエカ）がヒトを刺すことによって感染します。

症状について 日本脳炎はウイルスに感染しても症状が現れずに経過する場合がほとんどですが、発症した方の20~40%が亡くなってしまいますといわれています。また、生存者の45~70%に精神障害などの後遺症が残ってしまうといわれています。

症状が出る場合、6~16日間の潜伏期間の後に、数日間の高熱、頭痛、嘔吐などが現れ、引き続き急激に、光への過敏症、意識がなくなる、けいれんなどの脳の障害を生じます。

予防について 予防の中心は、ウイルスを持つ蚊（主にコガタアカイエカ）の対策とワクチンの接種です。

- ・夏季、なるべく夜間の外出を控えましょう。（コガタアカイエカは日没後に活動が活発になるとされているため）
- ・戸外へ出かける必要があるときは、できる限り長袖・長ズボンを身につけましょう。
- ・露出している皮膚へ虫除け剤などを使用しましょう。
- ・蚊が屋内に侵入しないように網戸を使用しましょう。
- ・夜間の窓や戸の開閉を少なくしましょう。
- ・蚊帳を利用しましょう。

詳しくは厚労省HP「日本脳炎ワクチン」



また、日本脳炎ワクチンを接種することで、罹患リスクを75~95%減らすことができると報告されています。

定点種別	疾患名	状況	30週(7/21~7/27)		31週(7/28~8/3)	
			報告数	定点当り	報告数	定点当り
急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	-	2	0.08	3	0.13
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	/	183	7.63	206	8.58
	急性呼吸器感染症(ARI)	/	1355	56.46	1409	58.71
小児科	RSウイルス感染症	/	3	0.20	3	0.20
	咽頭結膜熱(プール熱)	-	3	0.20	6	0.40
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	13	0.87	13	0.87
	感染性胃腸炎	-	49	3.27	75	5.00
	水痘(みずぼうそう)	-	3	0.20	2	0.13
	手足口病	-	4	0.27	5	0.33
	伝染性紅斑(りんご病)	○	29	1.93	40	2.67
	突発性発しん	/	12	0.80	9	0.60
	ヘルパンギーナ	-	43	2.87	42	2.80
眼科	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	-	1	0.07	0	0.00
	急性出血性結膜炎	-	0	0.00	0	0.00
基幹	流行性角結膜炎(はやり目)	-	13	2.60	7	1.40
	細菌性髄膜炎	/	0	0.00	0	0.00
	無菌性髄膜炎	/	0	0.00	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎	/	20	4.00	16	3.20
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	/	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	/	0	0.00	0	0.00	

※「状況」欄は、疾患ごとの警報・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。
○:警報レベル △:注意報レベル -:警報・注意報レベルなし